

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		鈴鹿市第1療育センター				公表日		令和7年2月27日		
	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	15	5		<ul style="list-style-type: none"> ・就園クラスの2クラス同時稼働の日は利用人数に応じて工夫している。 ・未就園児クラスの午後の療育の時間の託児のお子様の部屋や人数を確保している。 ・出席人数が多いときは2チームに分け、少人数制にして部屋や活動を交代制にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親子+職員が入ると、十分なスペースが取れなくなることがある。 ・託児のスペースの確保が必要。 ・お子様が大勢になったりすると人があふれて目が行き届かなくなる。設定に配慮が必要。 			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	15	4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスで適切な職員配置になるように、職員休暇等について管理徹底している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1対1で支援したほうが良いときもあるが、難しいことがある。 ・職員の人数は限られているし、人を増やせばいいとは思わない。親子通所なので保護者様に参加を促したい。 ・療育に入っていると、「あともう1人職員がいてくれたら…」と思うことがあった。 ・引継ぎ会が重なりすぎないように、事前確認必要。 			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	17	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・各療育室名を色名にして、お子様にとって視覚的にもわかりやすくした。 ・視覚支援の活用で工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的トイレのベッドにベルトがないので、お子様が動いた時に危険と感ずる。 ・手洗いの数がもう少しあってもよい。 			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	15	4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・壁の飾りが今年度からなくなり、お子様にとって刺激が減ってよいと思う。 ・シルバーさんの清掃が毎日入っているため廊下やトイレの隅々まで綺麗と感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・窓に埃がたまり不潔（特にサッシ）。 ・職員の大掃除が年1回（年末）行っているが、もう少しあってもいいのではないか。 ・もう少し清潔にしてもよいと思う。 			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	18	2			<ul style="list-style-type: none"> ・特別な部屋がない。 			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	17	3		<ul style="list-style-type: none"> ・療育活動前後に、事前ミーティングと振り返りの時間をとって業務改善に努めている。 ・療育会議を通して、日々の目標設定や振り返りについて協議している。1月より各専門職員も参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正規職員を中心に行っているの、それ以外の職員の意見もより取り入れられると良い。 ・今後も多くの職員が話し合いの場に参加しやすい環境づくりが必要。 			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	19	1		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け評価表を受けて、管理者や児童発達支援管理責任者を中心とした話し合いの場を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け評価表を受けて協議するだけでなく、年度途中に協議されたことが改善されているかどうかの協議も必要。 			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	18	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の職員個別面談と月2回の運営会議を中心に、職員の意見等の把握に努めている。 				

		チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	14	5	1		・外部評価を行っていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	19	1		・伝達研修を盛んに取り入れられている。 ・研修の機会が増えている。	・疑問や困りごと、他施設との意見交換も大切なので引き続き設けてほしい。 ・研修を受講する機会は与えられているが、受講する人が一部のみ。職員全体の資質向上につながっているとは言えないと思う。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	18	2			・支援プログラム作成中。（今年度中完成予定）
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	20			・センター内の担当者会議を実施、課題について客観的に分析し、計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	20			・サービス担当者会議を実施し、お子様の最善の利益について協議されている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	20			・児童発達支援計画に沿った支援が行われている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	17	3			・十分な確認ができていない。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	20			・個別支援計画に、左記の項目をしっかりと踏まえた支援内容が設定されている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	20			・チームで行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	18	1	1	・各クラスのリーダーが固定化しないようにプログラムを工夫している。	・固定化しないように工夫しているつもりだが、毎月似たようなプログラムになることもある。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	19	1		・各個別訓練と集団療育を組み合わせ、個々に合った支援をしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	20			・支援開始前に、必ず打ち合わせを実施して、活動内容や担当、注意すべき点等について確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	20			・支援終了後に、振り返りを実施して、そのクラスの反省や課題等について共有している。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	20			・日々の支援について、必ず記録をとっている。		
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	20			・定期的にモニタリングを行い、サービスの見直しにつなげている。		

	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	20			・現場全体を把握している児童発達支援管理責任者中心に、担当者会議やケース会議等に出席している。	
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	19	1		・行政連携会議の実施や保健センターの親子教室の見学、保育所等訪問支援などをおして連携している。 ・ケースによって、子ども保健課の職員と連携を取り合っている。 ・『小児在宅医療にかかる行政機関等連携会議』をおして、他機関連携に努めている。	
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	18	2			・会議の機会がないと連携は少ないように思う。 ・交流保育の機会を活用しているが、きょうだい児が同伴できないなどの障壁もあり参加希望のお子様が少ない。
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	20			・引継ぎ会に参加している。	
	28 (28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	17	2	1		・あまり行えていない。
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	18	1	1	・積極的に外部研修へ参加した。 ・職員に対する研修の機会を多くいただいている。	
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	16	3	1	『市内障害児通所支援事業所 担当者連絡会』や『子ども・子育て会議』に積極的に参加している。	・あるのか知らない。
	31 (31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。					
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	12	7	1	・希望者に交流保育を案内している。	
	33 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	19		1	・来所時や降所時等に保護者様とコミュニケーションを図り、共通理解に努めている。	
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	19		1	・今年度初めて、ペアレントトレーニング(年長クラス対象)を実施した。 ・今年度一部のクラスで行った。	・今後、利用対象がもっと広がると良い。
	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	20				・より一層保護者様へ丁寧な説明を心掛けていく必要があると感じる。
36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	20			・センター内の担当者会議を実施し、お子様の最善の利益について協議されている。		

		チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	20			・計画の同意をいただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	20			・母の悩みや家での様子を定期的に聞くように心がけている。自身で解決できないことは他の職員にも共有し、母の支援を行っている。 ・保護者様からの申し出に応じ、相談対応を行っている。	・保護者様からの申し出のない方については支援が十分とは言えないこともある。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	11		・おもちゃ図書館を開館した際、保護者様同士やお子様同士と交流の場がある。	・保護者様同士で情報交換ができる場がもう少し作れると良い。 ・肢体不自由児のクラスで、母同士が話をできる時間が何回かあったが他のクラスも設けられると良いと思う。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	20			・苦情が入った際は、迅速な対応できるように、職員間で報告・連絡・相談を徹底している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	20			・InstagramやFacebookの積極的活用。 ・SNSでの発信に力を入れている。同じ内容にならないよう、見ている人のニーズに合わせた内容を投稿できるよう心掛けている。 ・きずなメールを活用して、保護者様向けに情報発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	20			・外部で口外しないことは当然で記録も内容(名前)が見えないように机上では注意している。 ・個人ファイルは鍵をかけて保管している。 ・コンプライアンス研修で、個人情報の取扱いについて職員に向けて注意喚起があった。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	20			・聴覚障がいの方とのコミュニケーションをよりスムーズに図るために、法人内で開催されている手話勉強会にセンター代表で職員2名が参加している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	15	5		・地域へのイベントに参加している。社協のイベント(ふれあい広場等)もあり、相談コーナーを設け、参加している。 ・地域で開催される福祉イベントに積極的に参加している(おもちゃ図書館や相談コーナー等)。	・地域で開かれた行事がないので、機会を作ると良いのではないかと思う。
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	18	2		・各マニュアル(防犯マニュアル以外)が策定されている。 ・各マニュアルや取り組みについて研修会や職員会議を通して職員へ周知されている。	・毎回適切な訓練を実施していると思うが、いざという時のために、訓練する日を多くしたり、訓練の時間を職員に伝えず行うようにしてもよいと思う。災害はいつ起こるかわからないので。	

	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点	
非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	19	1		<ul style="list-style-type: none"> ・BCP策定しており、BCPをテーマとした職員研修も実施している。 ・避難訓練は年2回実施している。 	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	19	1		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より個別の緊急情報カードを作成。 ・事前に保護者様から聞き取り、カード内に服薬やてんかん等の情報が記載されている。 	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	14	6		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者様から聞き取っている。 ・保護者様から情報を詳しく聞き取り、対応している。また、医師によるエピペンの使用についての研修を受けたことがある。 ・保護者様と確認の上対応している。 ・今年度より個別の緊急情報カードを作成。カード内にアレルギー等が記載されている。 	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	18	2		<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で話し合いをし、安全面の管理のもとで支援をしている。 ・今年度作成された安全計画に基づき、安全管理の中で支援が行われている。 	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	16	4		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より作成された安全計画について、保護者様向けメールにて家族等へ周知している。 	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	20			<ul style="list-style-type: none"> ・一度起こしたことを繰り返さないよう、対策を練っている。 ・事故・ケガがあった際、再発防止に向けて話し合いがされている。翌日、朝礼にて報告し、職員全体で共有している。 	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	19	1		<ul style="list-style-type: none"> ・研修を受ける機会の確保がなされている。 ・虐待防止委員会主催の研修会が年1回開催されている。動画視聴も可となつて助かっている。 	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	14	6		<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束する利用者が現在みえない。 	